



写真提供：筆者撮影

長崎の世界文化遺産「潜伏キリシタン関連遺産」についてお話しします。

こちらは長崎を舞台にした小説『沈黙』を書いた遠藤周作の文学館がある、夕陽が丘から撮影した海です。日没前にこの海を眺めると、この大作の着想を得た遠藤の気持ちがわかるような気がします。

長崎の教会は潜伏キリシタンの歴史と深くつながっています。

長崎関連のターニングポイント	時期
①開港	1571年
②秀吉による禁教令と江戸幕府による禁教令	1587年と1612年
③鎖国の始まり	1641年
.....	
.....	
④鎖国の終わりと禁教令の緩和	1853年と1859年
横浜天主堂建築 近代日本最初の教会	1862年
大浦天主堂建築 現存最古の教会	1864年
信徒発見！！	1865年
大日本帝国憲法 信仰の自由	1889年

長崎はどこよりも早く1571年に開港しました。宣教師が訪れクリスチャンが増えましたが、20年足らずで、禁教令と鎖国によって当時の教会は全て壊されてしまったので、画像をご紹介できないのが残念です。この表を見ていただくとわかる通り、20年足らずのキリスト教の布教期間に対して、その後260年余りの禁教時代がありました。



写真提供：長崎旅ネット

こちらは現存する教会で日本最古の大浦天主堂です。1865年、ここを訪れた住民がずっと信者であったことを打ち明けた「信徒発見」がありました。弾圧されて二百数十年、集まる場所も宣教師もいない中で、何世代にもわたってどうやって信心を続けていたのでしょうか。これはキリスト教世界で「東洋の奇跡」と呼ばれています。



写真提供：長崎旅ネット

1850年代に鎖国が終わり、禁教令が解かれると、教会建築の機運が一気に高まりました。木造、レンガ造り、石造りなど様々です。こちらは、禁教時代にも信心を続けて来た集落にある出津教会です。この近くには、日本で唯一現在も隠れキリシタン(潜伏していた頃の風習を今も継続している方々)が住む村があります。

旧五輪（ごりん）教会 1881年 集落が世界遺産 五島市



写真提供：長崎旅ネット

旧五輪教会は木造で素朴な寺子屋風です。



写真提供：写真 cc

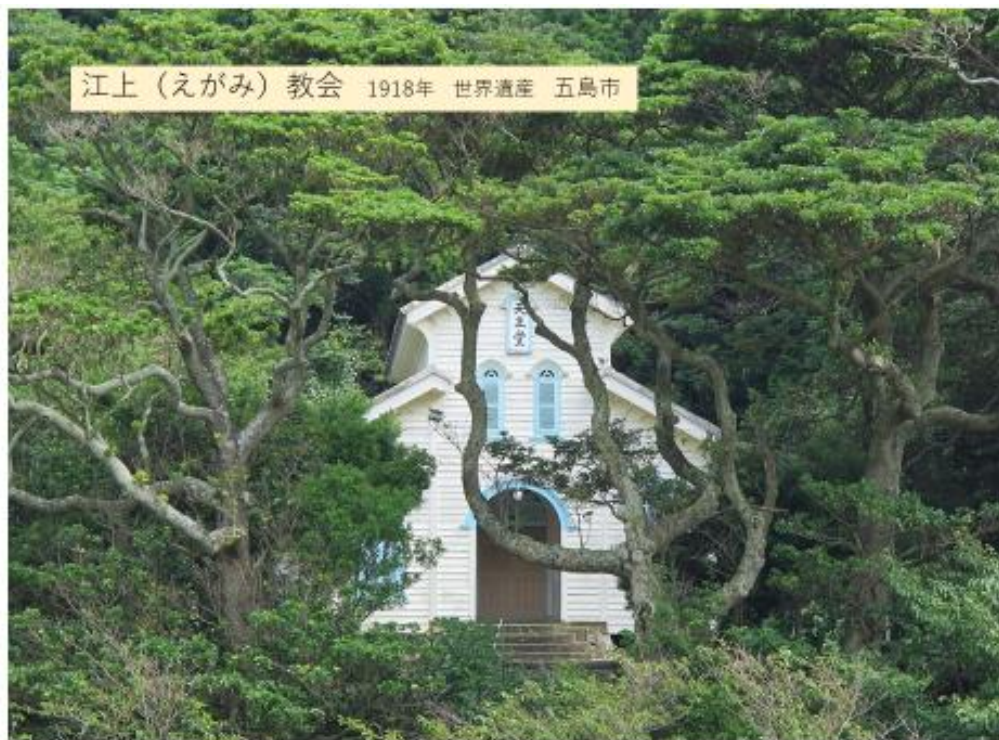
堂崎教会のようなレンガ造りの堂々とした教会も建てられました。

頭ヶ島(かしらがしま)教会 1919年 集落が世界遺産 長崎県南松浦郡



写真提供：写真 cc

この後、日本教会建築の父である、五島の鉄川与助が作った石造りの頭ヶ島教会です。石造りは大変珍しいものです。頭ヶ島は無人島でしたが、潜伏キリシタンが信心の土地を求めてこの地に来ました。



写真提供：長崎県観光連盟

これも鉄川製作の木造の江上教会です。水色と白の教会と木々の緑のコンビネーションが癒しを与えてくれます。

教会内部の柱の手描き模様もぜひ見ていただきたいものです。